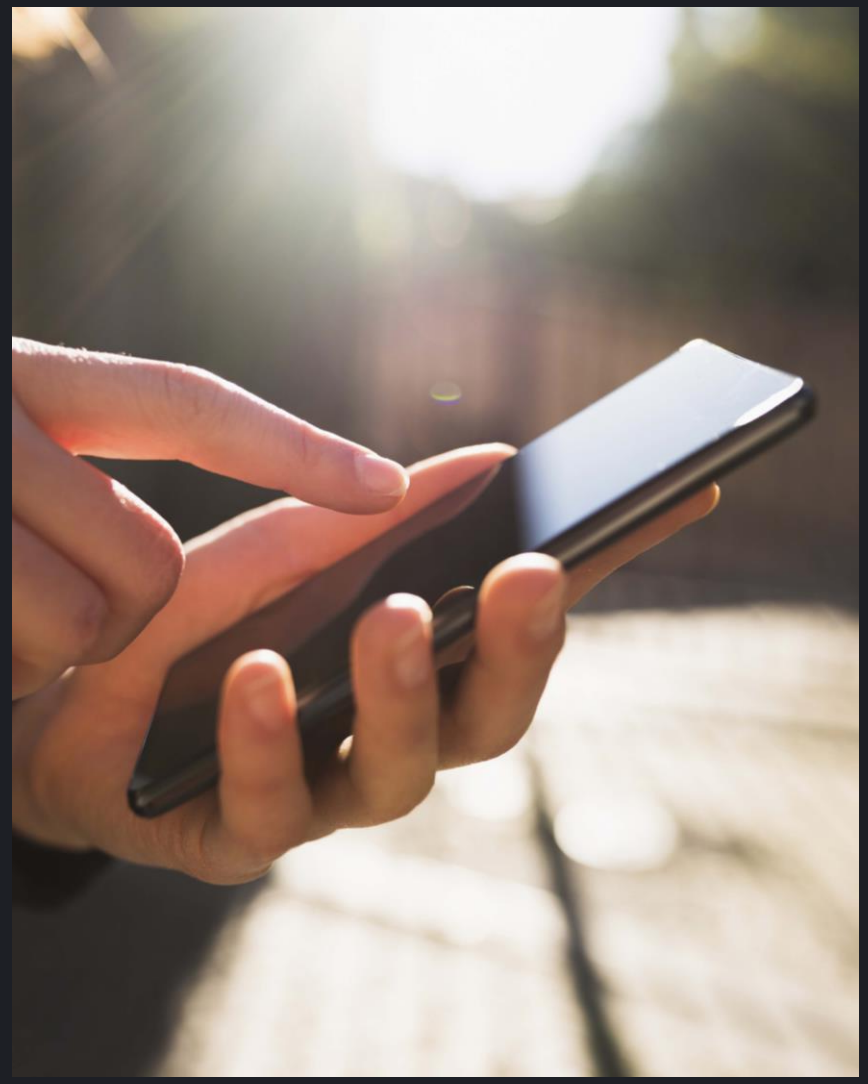
マツダ中期経営計画アップデートおよび
2030経営方針説明会

mazda



「走る歓び」を
進化させ続ける

誰もが活き活きと暮らす
「愉しさ」と「生きる歓び」を

「ひと中心」の思想

人の心も身体も活性化される
ものづくり、つながりづくり、ひとづくり

マツダ経営基本方針

マツダ経営基本方針

1　地球温暖化抑制への貢献

2　安全/安心なクルマ社会の実現

3　ブランド価値経営の継続

消費者の選択

電力供給基盤

2030

電源構成の変化

電池技術の進化

3つのフェーズ

PHASE1

2022-2024

PHASE2

2025-2027

PHASE3

2028-2030

PHASE1

2022-2024

電動化時代に向けた開発強化

PHASE2
2025-2027

PHASE3
2028-2030

PHASE1

2022-2024

米国工場 / ラージ商品群

PHASE2
2025-2027

PHASE3
2028-2030

PHASE1

2022-2024

原価低減活動の強化

サプライチェーンの強靭化

PHASE2
2025-2027

PHASE3
2028-2030

PHASE2

2025-2027

電動化へのトランジション

PHASE1
2022-2024

PHASE3
2028-2030

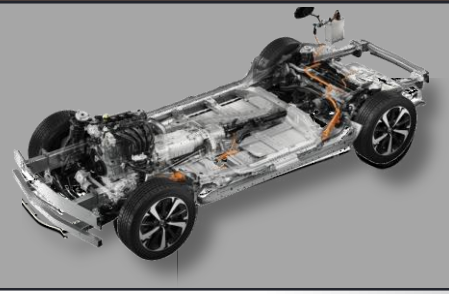
商品/技術の「ビルディングブロック構想」

EV専用群

SKYACTIV EV専用
スケーラブルアーキテクチャー

LARGE群

縦置き型
SKYACTIVマルチソリューション
スケーラブルアーキテクチャー



SMALL群

横置き型
SKYACTIVマルチソリューション
スケーラブルアーキテクチャー

PHASE2

2025-2027

電池調達

バッテリー技術開発強化

バッテリーEV先行導入
（PHASE2後半）

PHASE1
2022-2024

PHASE3
2028-2030

PHASE3

2028-2030

バッテリーEV本格導入

PHASE1
2022-2024

PHASE2
2025-2027

PHASE3

2028-2030

電動化時代への転換

電池生産への投資

PHASE1
2022-2024

PHASE2
2025-2027

「人と共に創る」

主要取り組み

1　カーボンニュートラル

2　電動化

3　人とITの共創による価値創造

4　原価低減とサプライチェーン強靭化

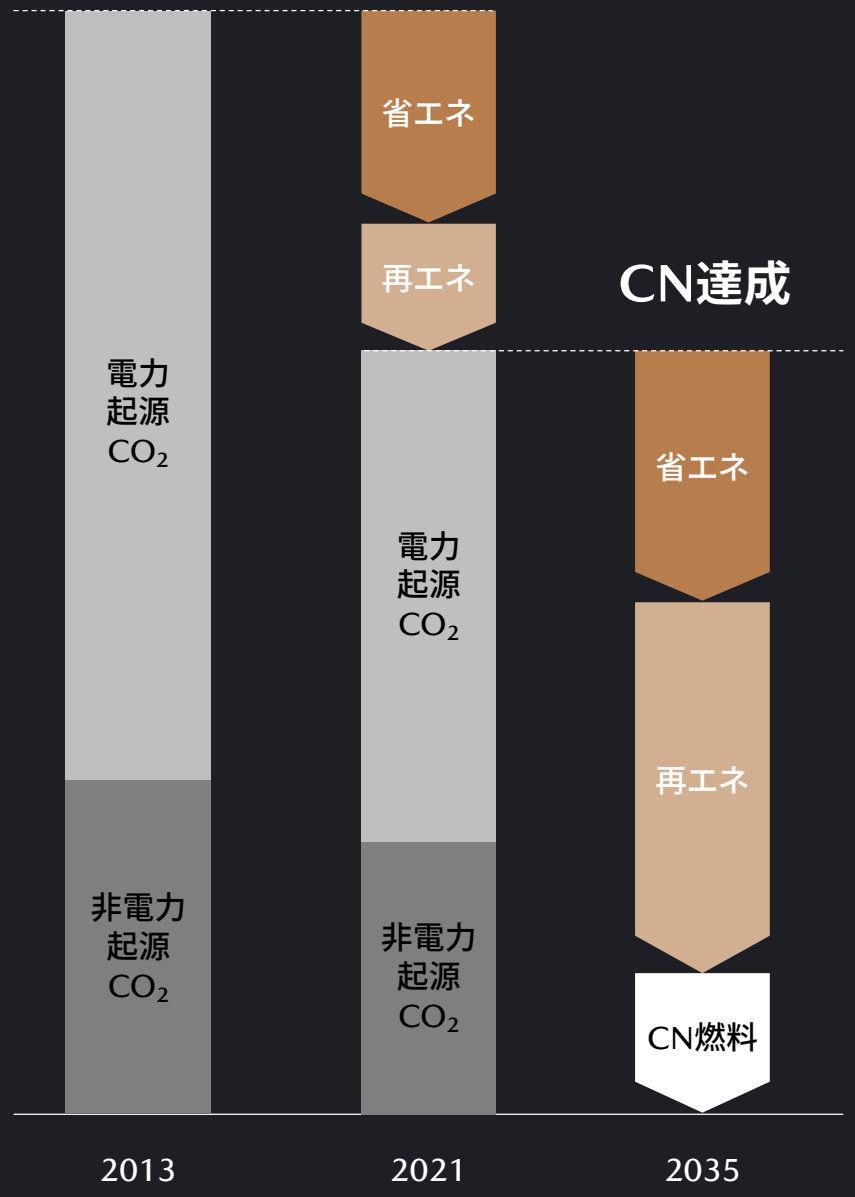
カーボンニュートラル

1

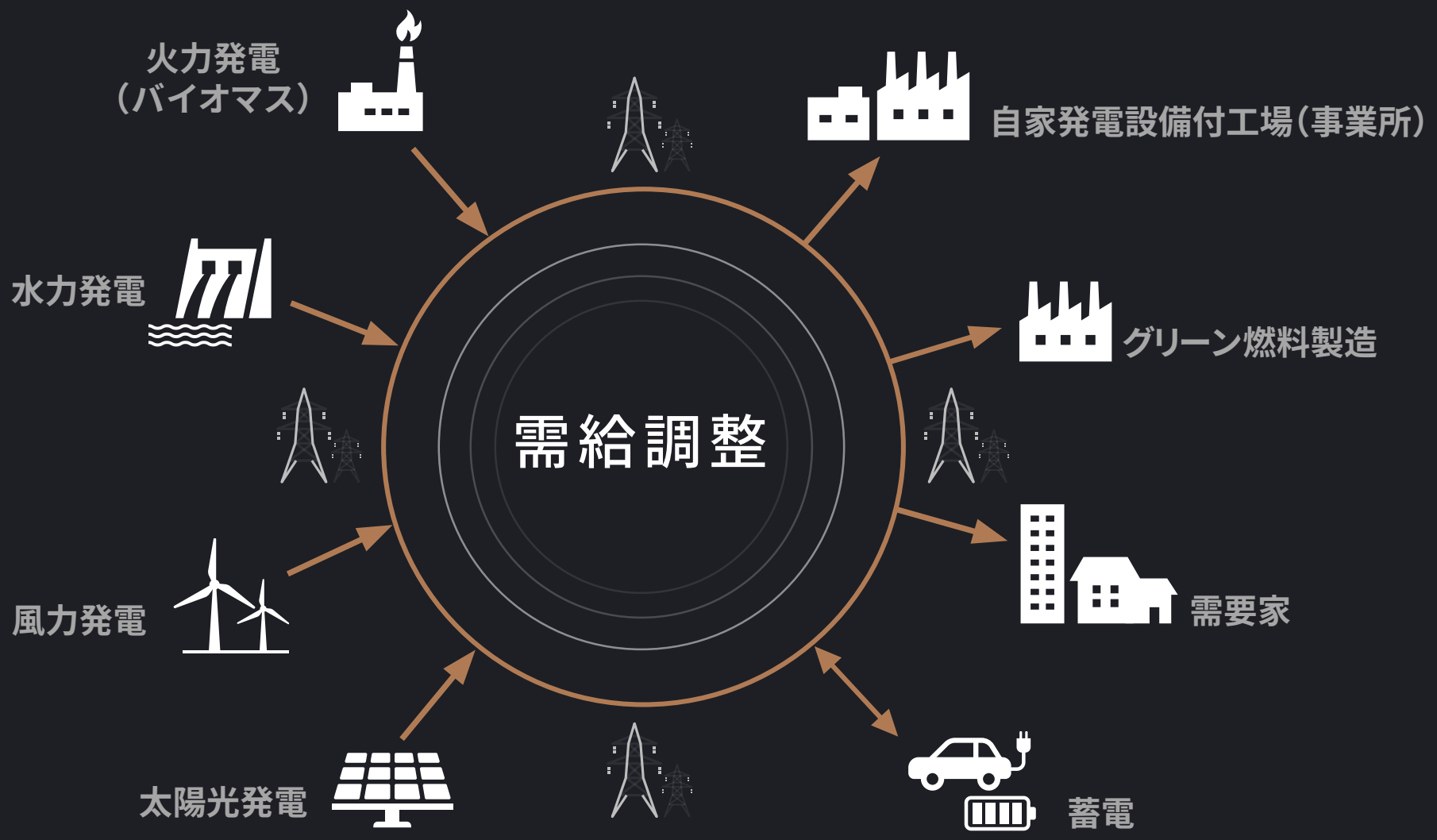
- 2050　カーボンニュートラルに挑戦

- 2035　自社工場の
　　カーボンニュートラル実現

省エネ/再エネ/CN燃料で取り組む



これまでの化石燃料を中心とした
大規模な垂直統合型の電力システム



新たな電力ネットワーク（水平分散型）への進化が不可欠

地域の脱炭素化
中国地域の省エネ/
カーボンニュートラル
電力拡大
カーボンニュートラル
推進協議会
地域の
産業競争力の強化
地域経済の成長

カーボンニュートラル燃料の活用拡大

電動化

2

HYBRID
PLUG-IN HYBRID
SKYACTIV-D
RE MULTIPLE
ELECTRIFICATION
TECHNOLOGY
SKYACTIV-X
EV
SKYACTIV-G
マルチソリューションによる
本格的な環境貢献

2030年時点のBEV想定比率

25% - 40%

3つのフェーズ

PHASE1
2022-2024

電動化時代に向けた
開発強化

PHASE2
2025-2027

電動化への
トランジション

PHASE3
2028-2030

バッテリーEV
本格導入

マルチ電動化技術をフル活用

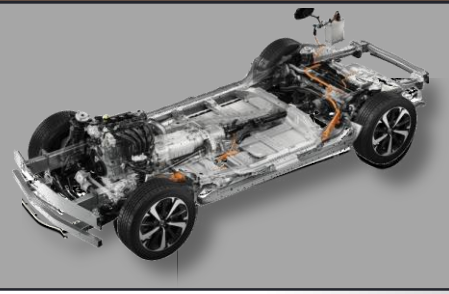
商品/技術の「ビルディングブロック構想」

EV専用群

SKYACTIV EV専用
スケーラブルアーキテクチャー

LARGE群

縦置き型
SKYACTIVマルチソリューション
スケーラブルアーキテクチャー



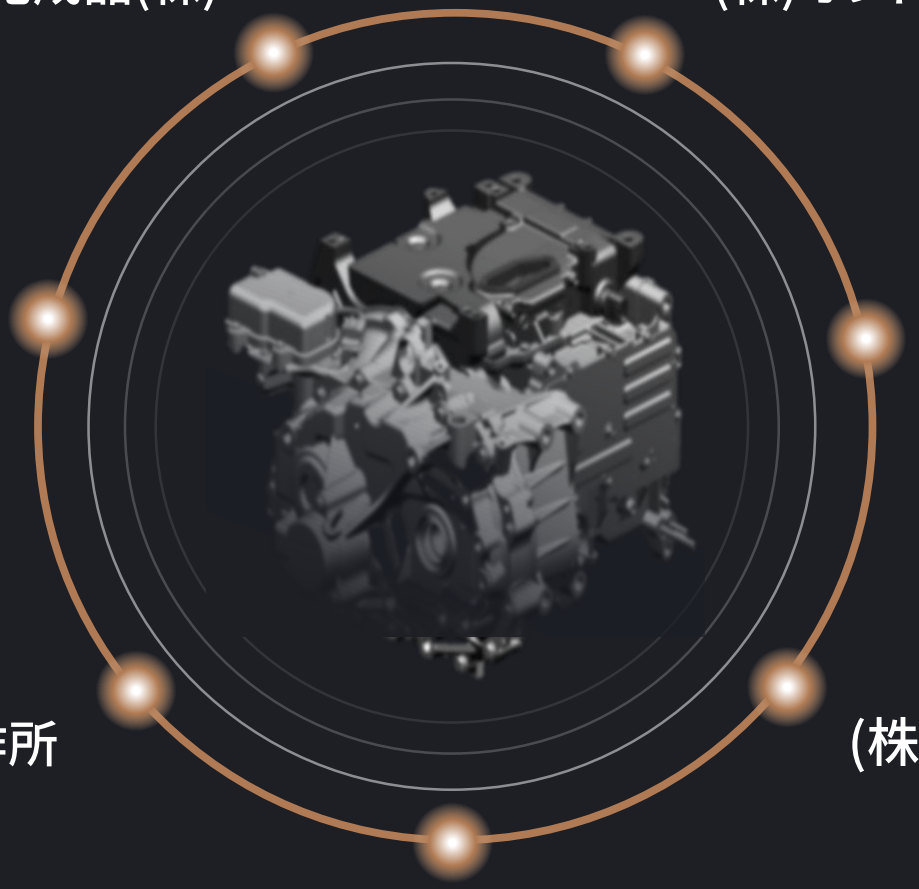
SMALL群

横置き型
SKYACTIVマルチソリューション
スケーラブルアーキテクチャー

新しいハイブリッドシステムを導入

グローバルにバッテリーEV導入

電駆の基幹ユニット領域で協業し、競争力のあるユニットを創出



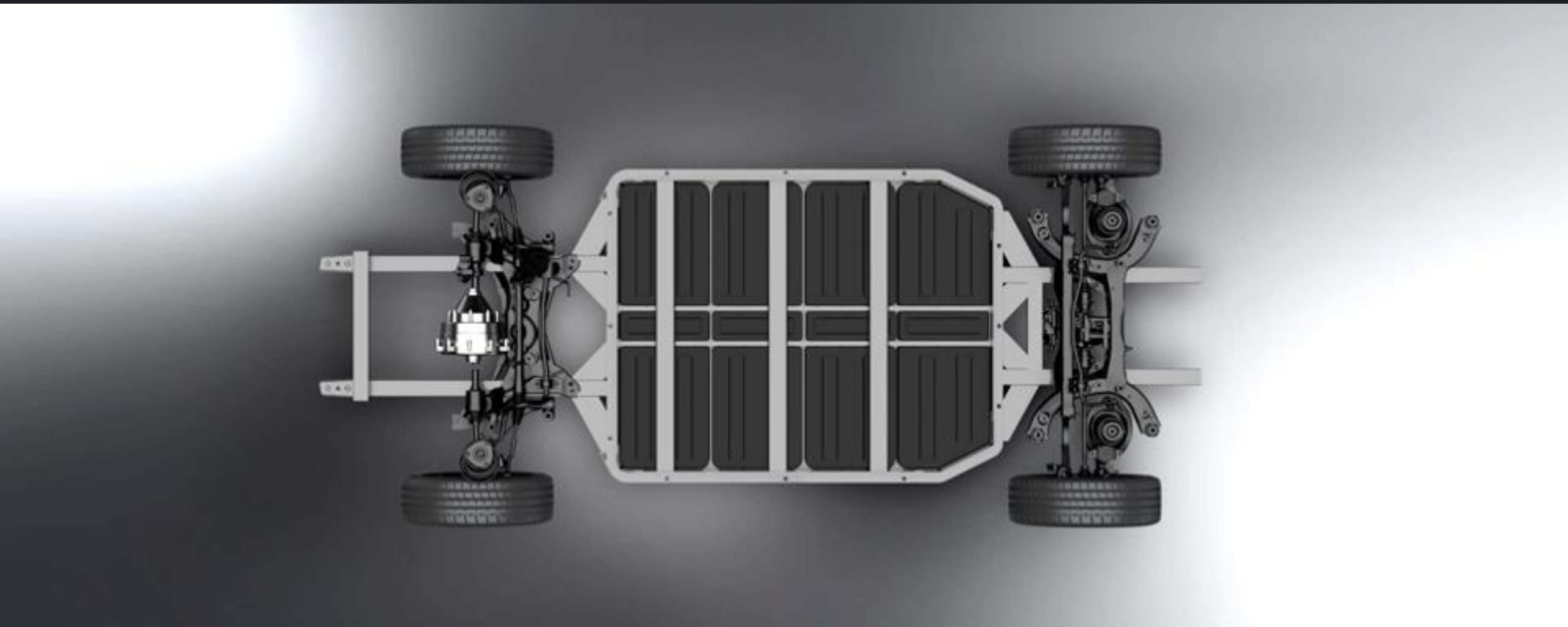
グリーンイノベーション基金に採択された

先端電池技術を開発

エンビジョンAESC様からの

電池調達を合意

電池生産への投資などを視野に入れた
本格的電動化に対応



人とITの共創による価値創造

3

「人を深く知る」
人の五感で感じる「走る歓び」

マツダデジタルイノベーション

※技術試作車

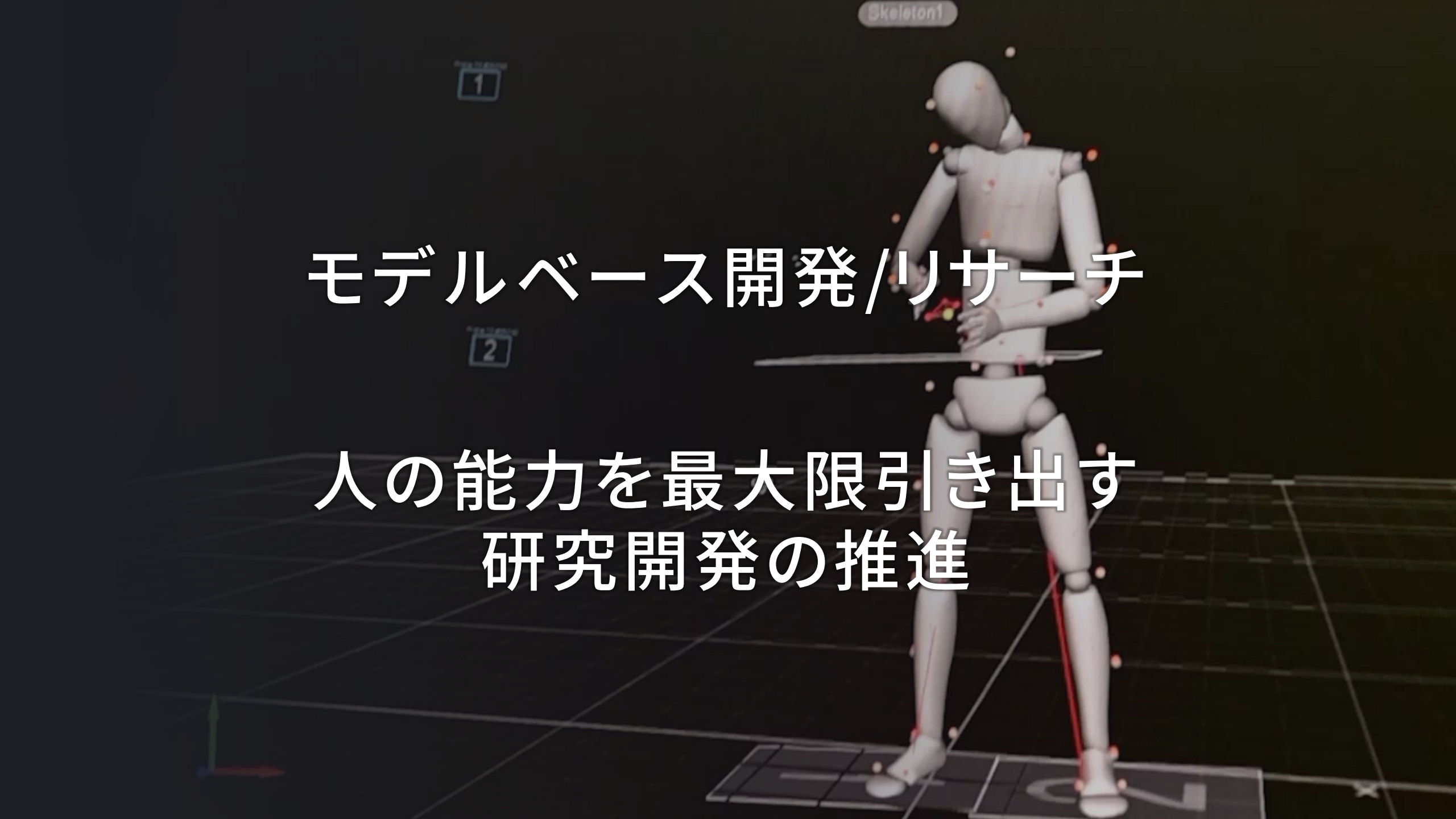
安全/安心なモビリティ社会の実現

自動車技術で対策が可能なものについては

2040年を目処に

自社の新車が原因となる

死亡事故ゼロへ



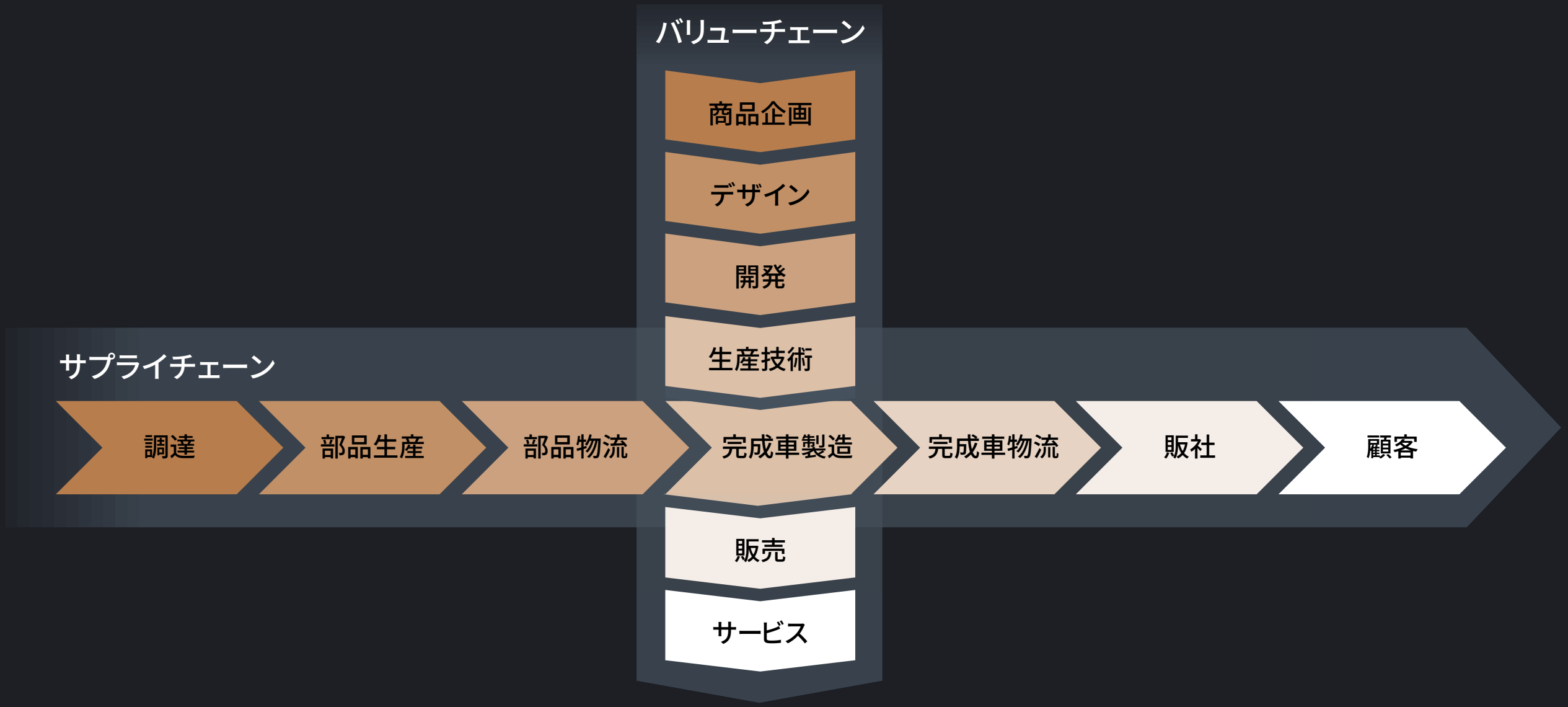
モデルベース開発/リサーチ

人の能力を最大限引き出す
研究開発の推進

原価低減と
サプライチェーン強靭化

4

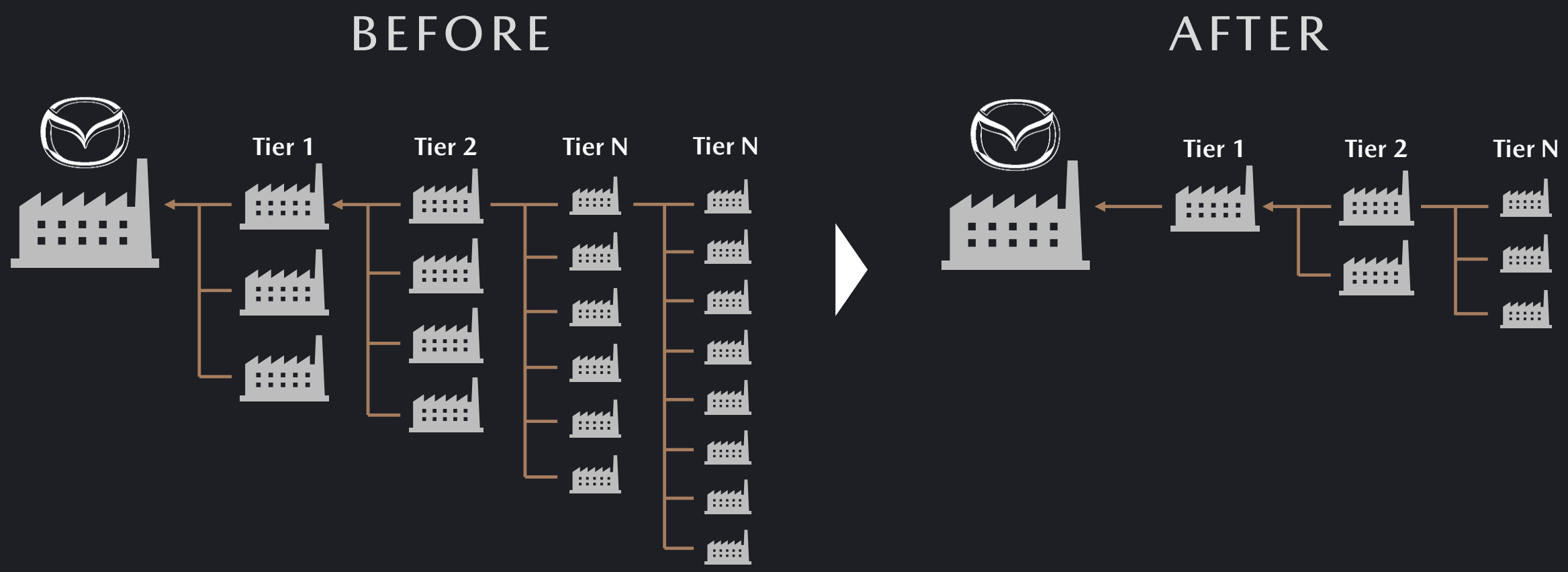
両チェーンでムダ/ムラ/ムリを取り除く



サプライチェーン

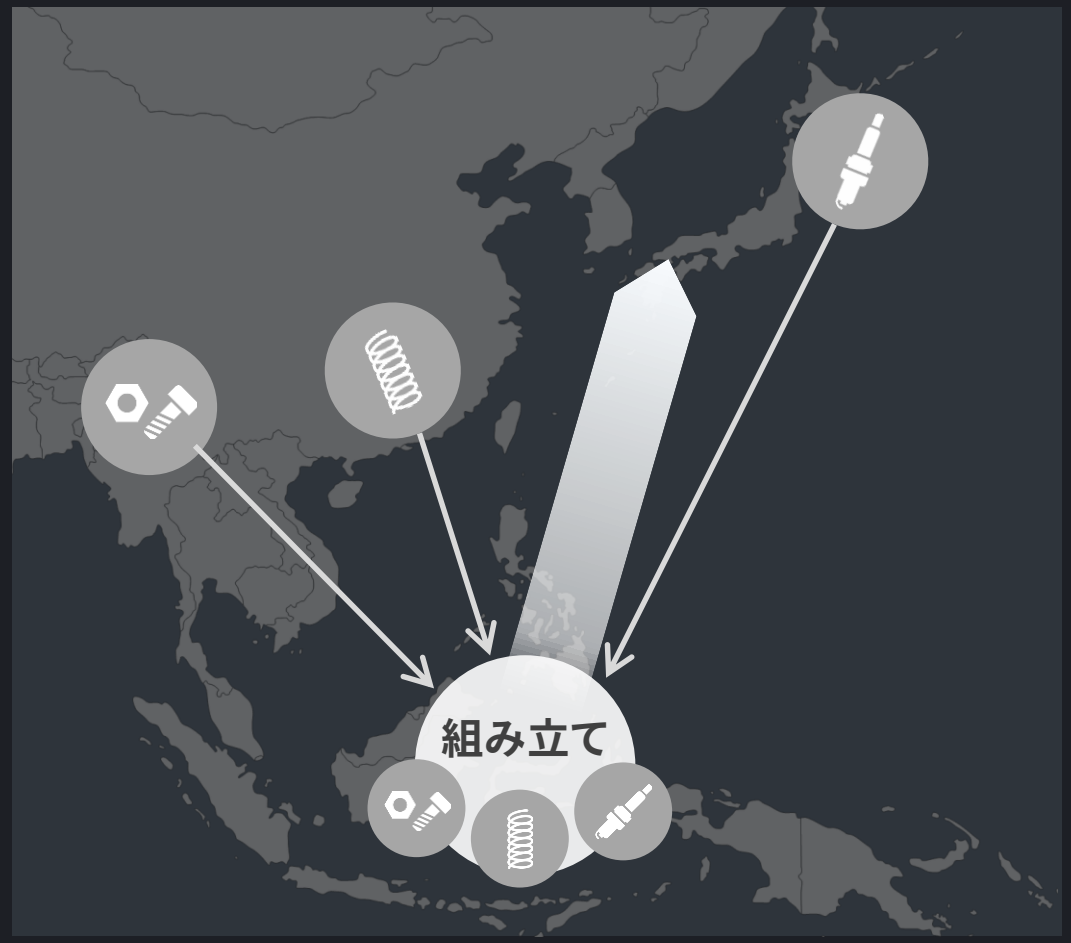
モノが流れるスピードを最大化

階層を浅くし、物流/商流を効率化

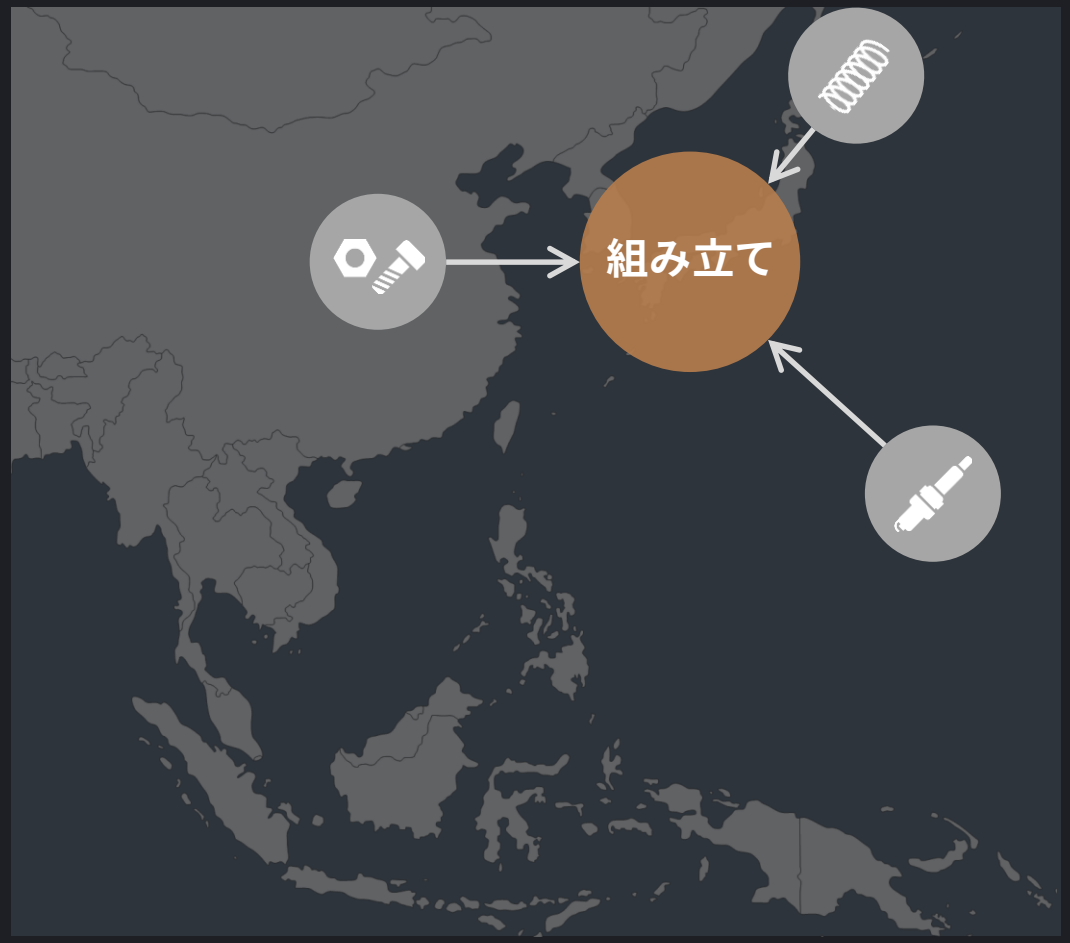


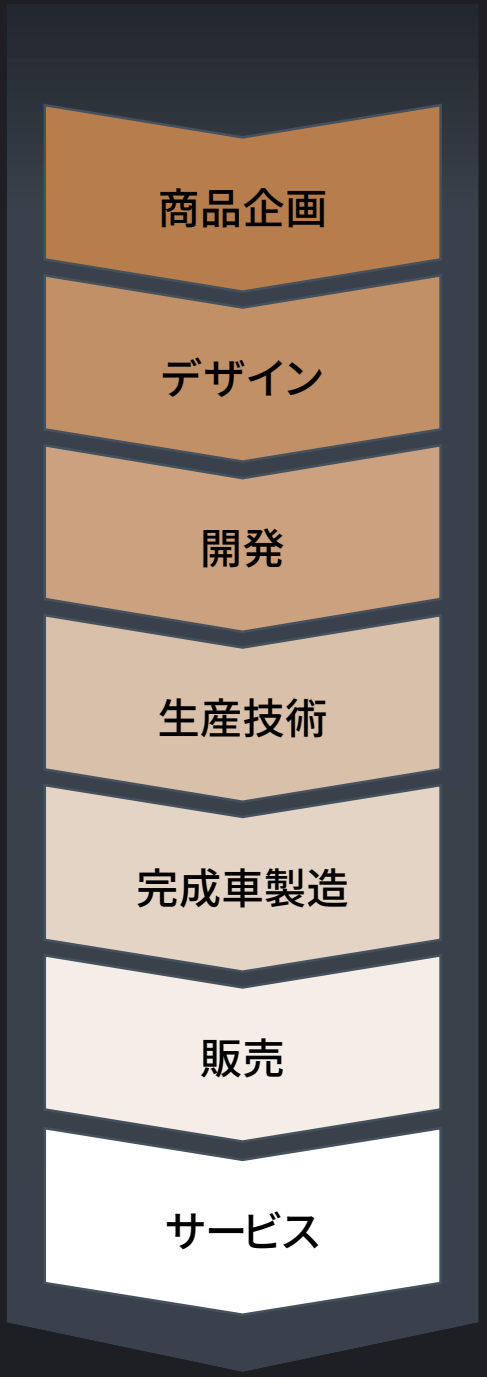
外部環境変化の影響を最小限にとどめる取り組み

BEFORE



AFTER





バリューチェーン

お客様に共感、満足いただける価値を一括で構想

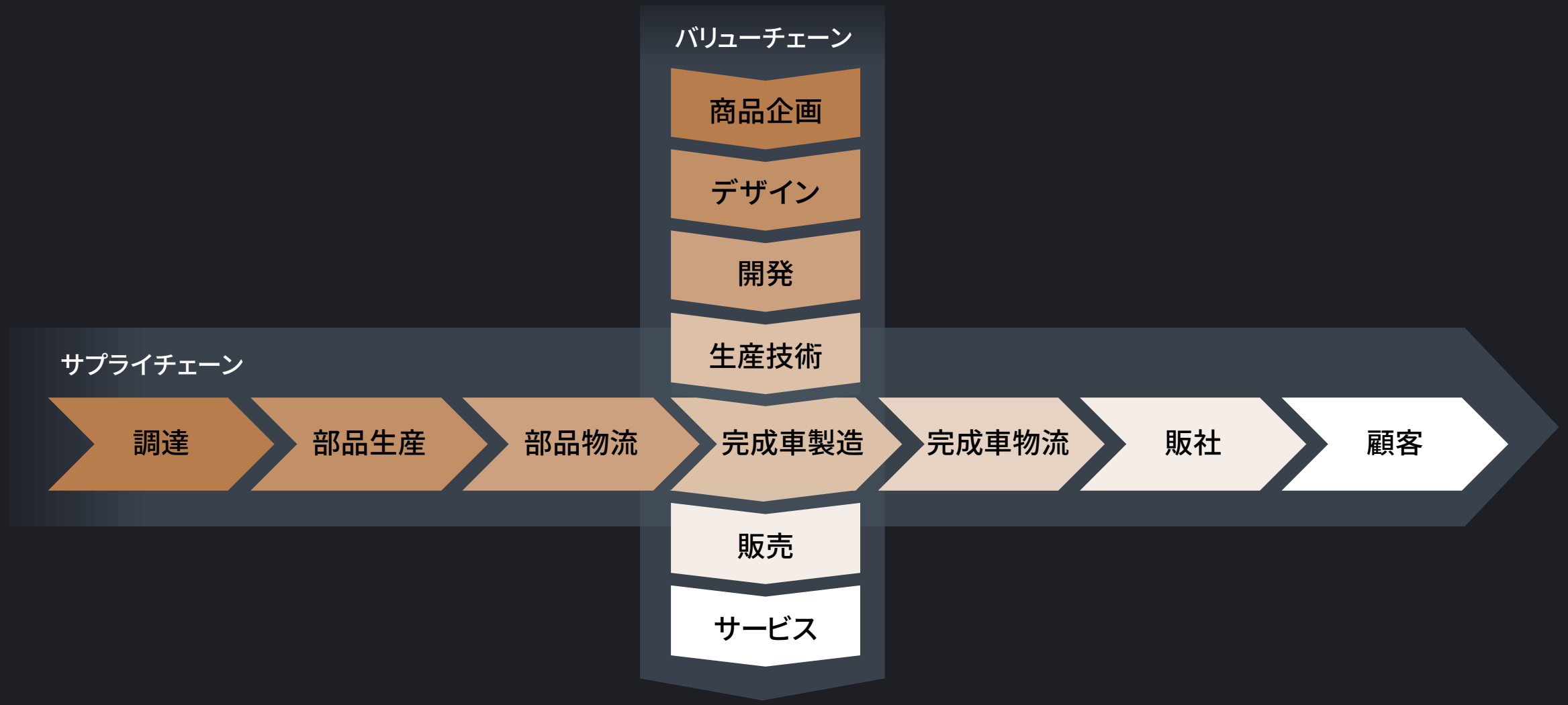
固定費負担を抑え、お客様の期待される価値を実現する

部品種類数の
適正化

サービスコストの
かからない構造

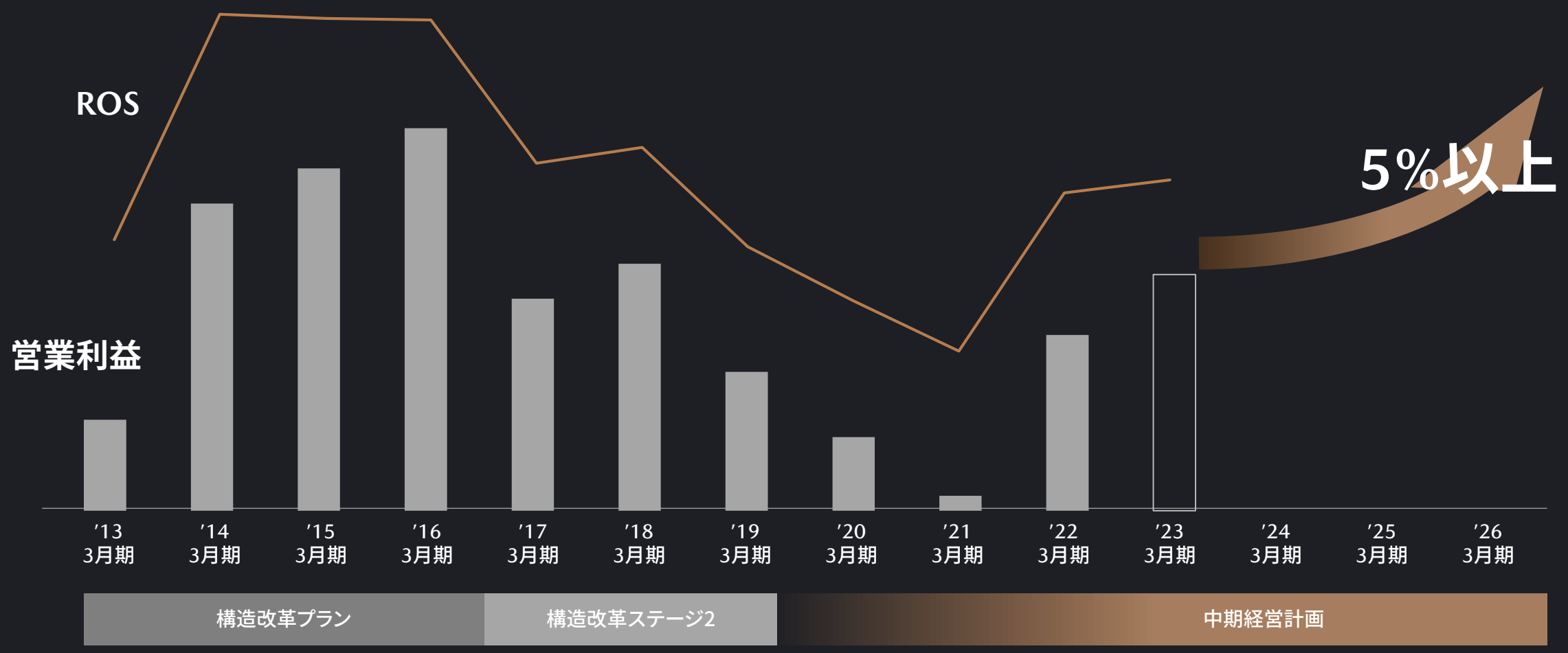
リサイクル
しやすい構造

サプライチェーン/バリューチェーンで
原価低減力・減産抵抗力を強化

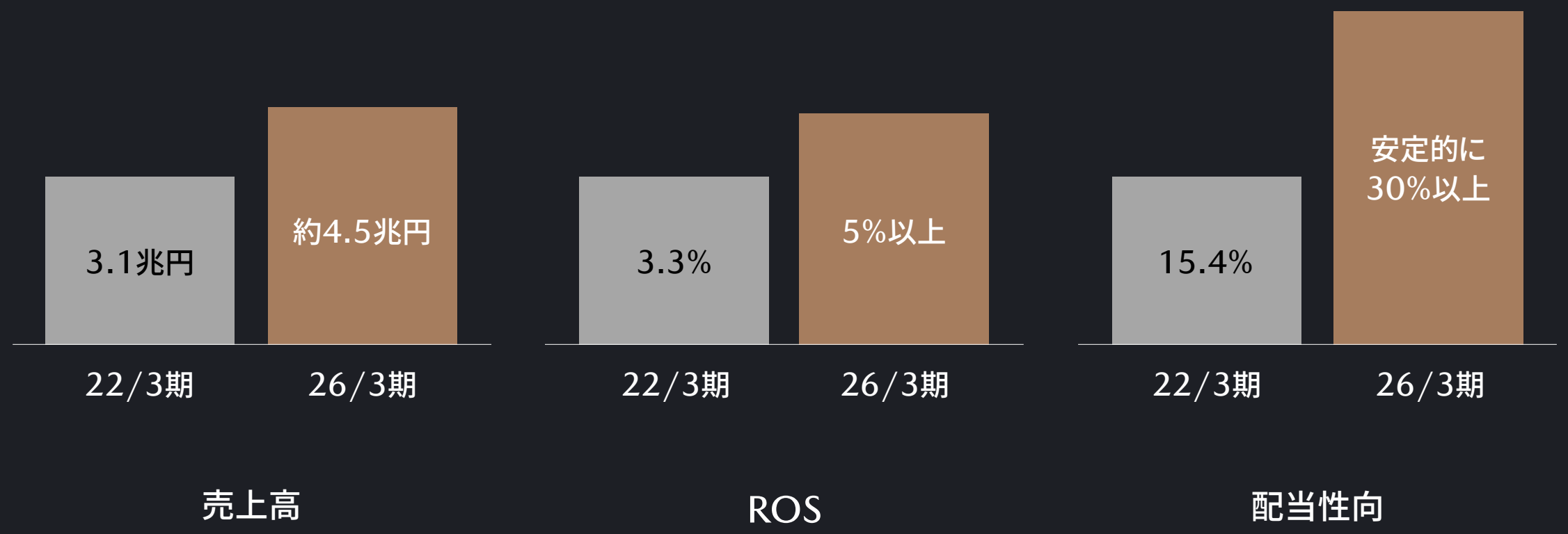


2026年3月期に向けての
経営ガイドライン

2026年3月期までの取り組み



2026年3月期の財務指標



持続可能な事業への転換

- 2035

自社工場の
カーボンニュートラル化

- 2040

自動車技術で対策が可能なものについて、
自社の新車が原因となる

死亡事故ゼロへ

CO_2 排出量削減

価値創造の源泉は人
mazda

人への投資を推進

デジタル人材の育成

- 2025　間接社員へのIT教育
- 2030　生産性の倍増
　　付加価値の高い業務へのシフト